

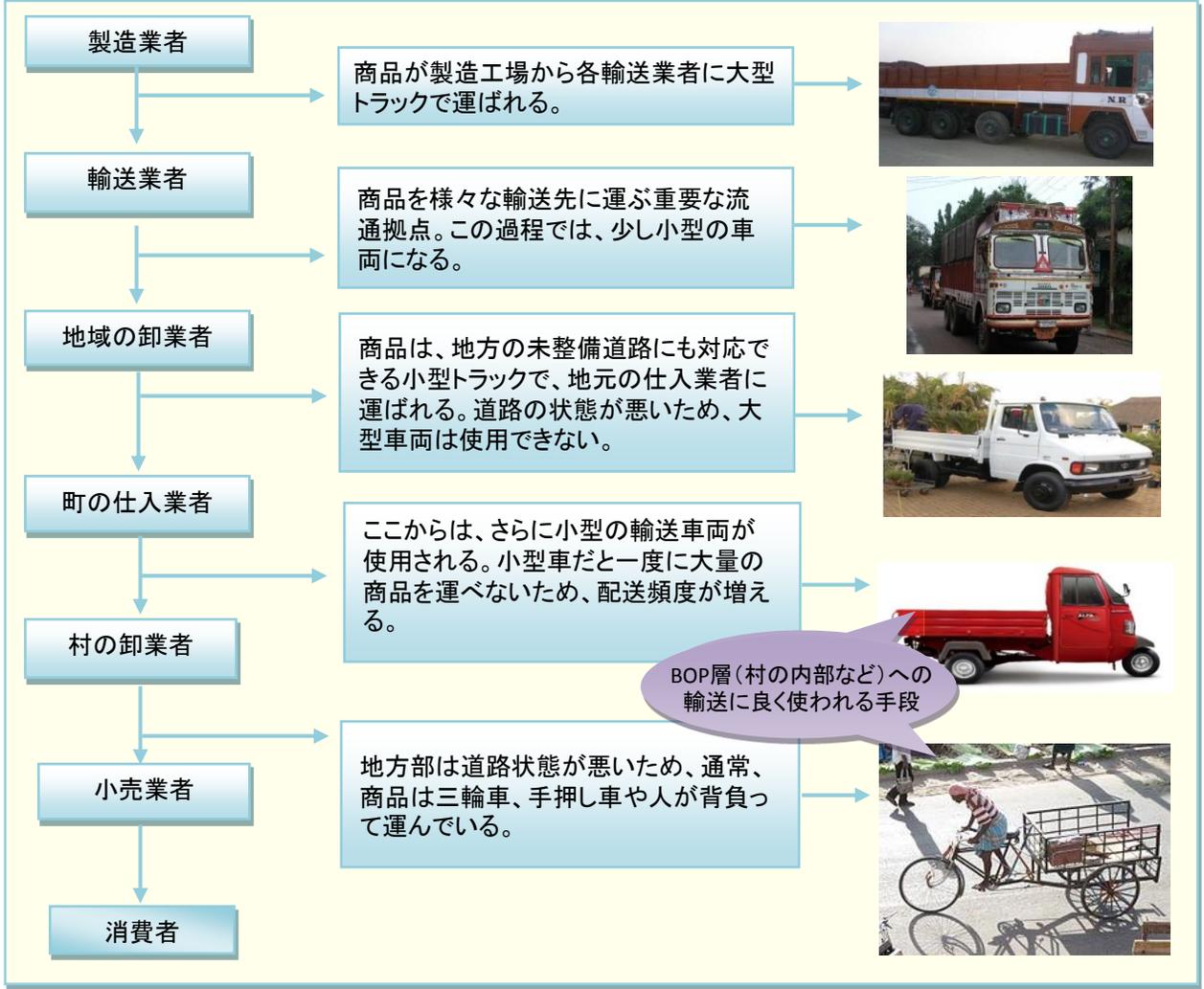


# 物流事情



## インド ニューデリー BOP実態調査レポート

### インド地方部のサプライチェーン構造





## サプライチェーンの輸送車両



- 積載量: 24トン
- 1日の平均輸送距離: 300-350キロメートル
- 通常は輸送会社が所有し、一次輸送(製造業者から輸送業者へ)に使用される。パケット無線サービス(GPRS)機能が搭載されており、車両の追跡に役立つ。

- 積載量: 16トン
- 1日の平均輸送距離: 200-250キロメートル
- 二次輸送(輸送業者から地域の卸業者や仕入業者)に使用される。



- 積載量: 2トン
- 1日の平均輸送距離: 125-175キロメートル
- 商品の短距離輸送に使用される。特に道路の状態が悪い所で有効である。



- 積載量: 1トン
- 1日の平均輸送距離: 50-75キロメートル
- 主に地方部で、短距離輸送に使用される。



- 積載量: 100-200キログラム
- 1日の平均輸送距離: 10-20キロメートル
- 道路の状態が悪く、他の輸送手段では入れないような場所でよく使用される。



- 輸送量: 40-75キログラム
- 1日の平均輸送距離: 2-5キロメートル
- 主に丘陵部や都市部で用いられる輸送方法

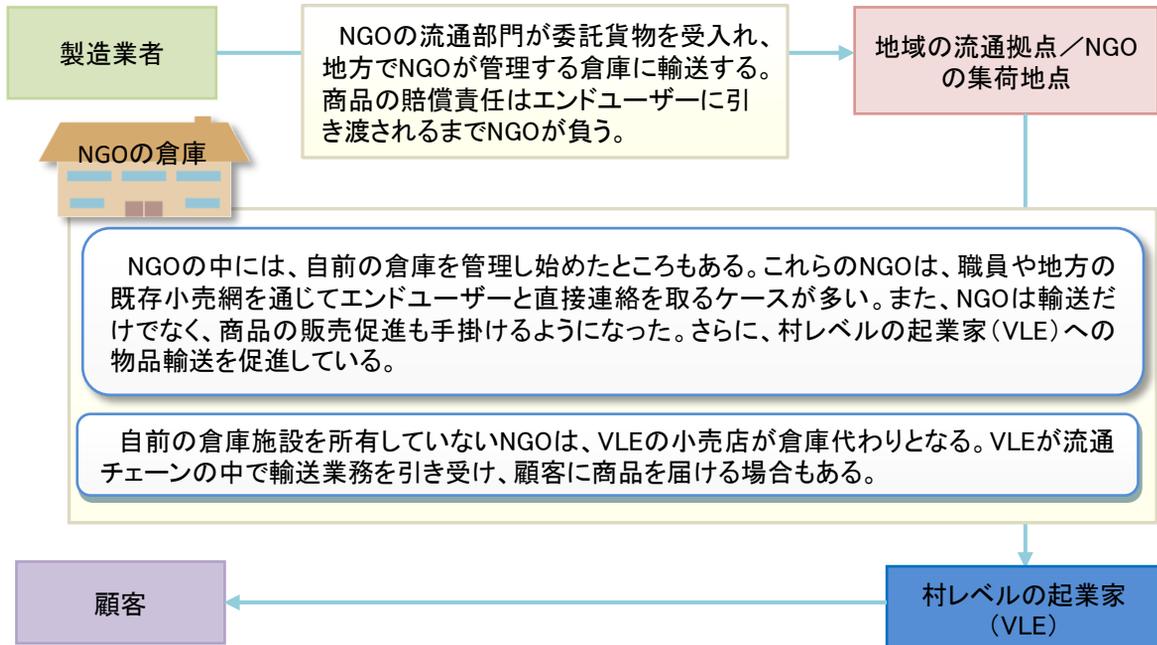




## BOP層に選ばれる流通チャネル – NGO

非政府組織(NGO)がサプライチェーンに参加したことで、BOP層の流通パターンは劇的に変化した。NGOと様々な協同組合は、地方部での物品の流通に関して、企業のサービス提供範囲を広げる上で重要な役割を果たしている。活動に一定の制約があるNGOは、あらゆる種類の物品の流通を専門にしているわけではない。多国籍企業や国内の大手企業は工場から地域の流通拠点に商品を輸送する際、一般に有名物流会社を利用する。物流会社は地方に物品を輸送する際、地方により幅広く配送するためNGOに輸送業務を外部委託することが多い。

NGOを通じた二次レベル流通チャネルには限界がある。日用消費財(FMCG)およびその他の生鮮食品の流通については、商品の集荷から村レベルへの商品の配送までの全流通過程を物流会社が担当する。NGOを介した流通過程は、利幅が小さく、かつ本質的に傷みにくい商品に限定される。





## 主な物流会社～TCI

会社名: TCI

### 概要

法的地位: 非公開有限会社

倉庫面積: 950万平方フィート

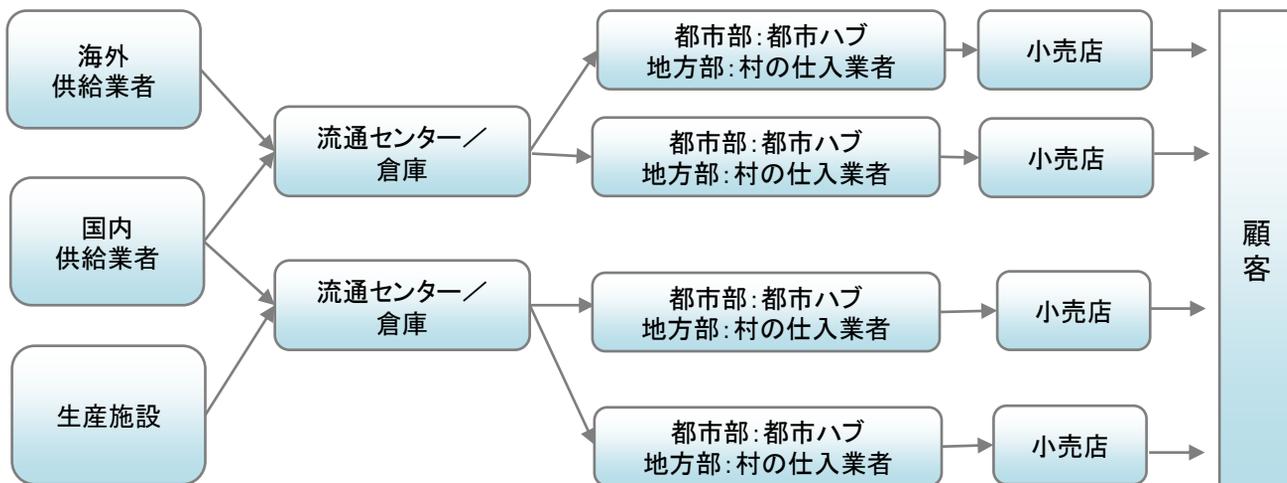
業種/部門: 流通およびサプライチェーン

支店: インド全国に1,000店

純資産額: 220億ルピー

従業員数: 5,000人超

### TCI小売サプライチェーン都市部・地方部



### コールドチェーン流通システム





## 主な物流会社～DHL

会社名：DHL

### 概要

法的地位：非公開有限会社

車両のサイズ：250台以上のLPG車

業種/部門：流通およびサプライチェーン

支店：国内に1,000店

サービス拠点：国内に2万2,200カ所

従業員数：1,500人超

海外の荷送人



優先サービスの場合は、自社貨物便で輸送



地方部と準都市部では、小型車で輸送している

流通センター

国内の荷送人



地域の倉庫

顧客



道路が狭く大型車が入れない地方部にはスクーターを置いている。

荷受人/  
小売店



## 主な物流会社～UTi Worldwide

会社名: UTi Worldwide

### 概要

法的地位: 非公開有限会社

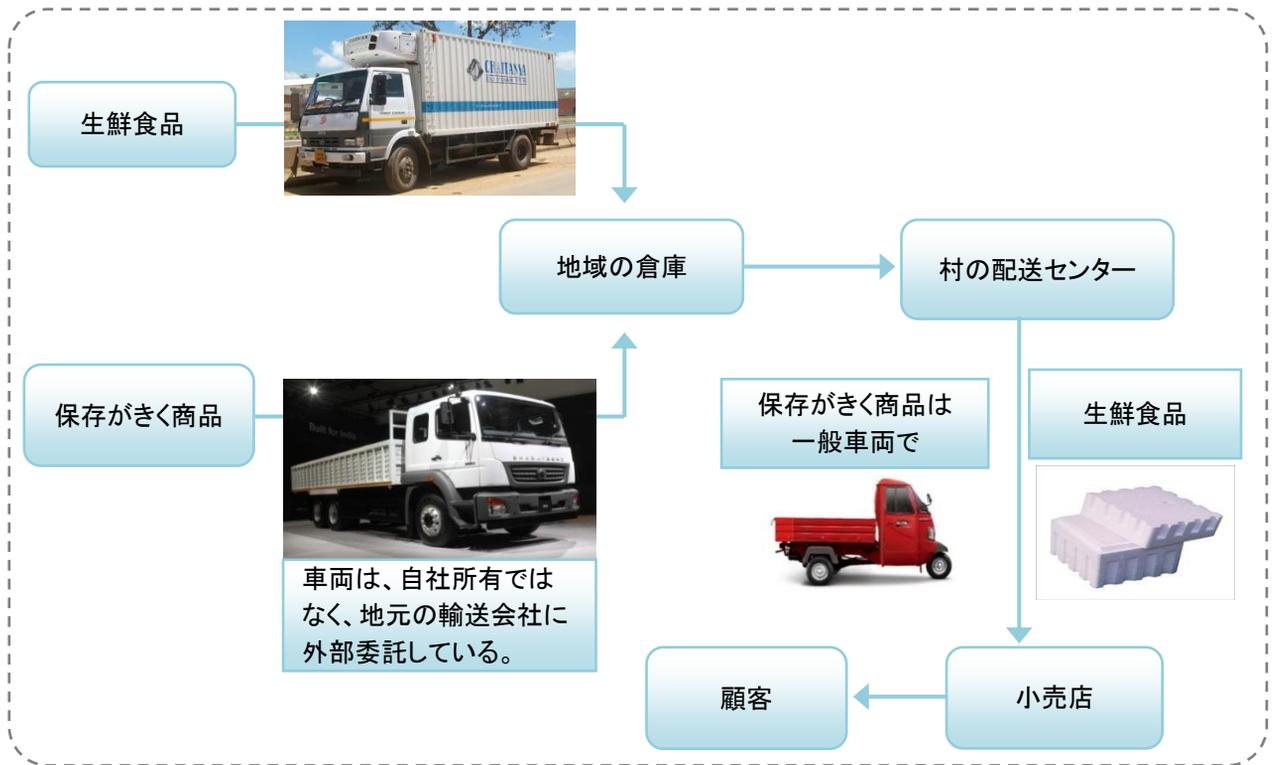
車両のサイズ: 外部委託した輸送管理

業種/部門: 流通およびサプライチェーン

支店: 国内に21の主要事務所

サービス拠点: 国内に2万2,200カ所

海外拠点: 60カ国以上



## まとめ

大多数の企業は、輸送を第三者に委託し、ほぼ全国を網羅している。BOP層への配送を目的とする流通または輸送業者の輸送システムが別途存在するわけではない。輸送システムは、一般には地方部と都市部に分かれている。

BOP層向けのエネルギー製品やコンロ等の利益幅が小さい商品の輸送・流通は、採算を維持するため、NGOや生活協同組合、村レベルの起業家のサービスを利用している。